

コープみらい東京2ブロック委員会

サステナブルって
わくわく!
コープサステナブルアクション



日本生協連では、6月の環境月間に合わせて、特設サイト「サステナブルってわくわく！コープサステナブルアクション」を開設しました。環境について楽しく学べる、さまざまなコンテンツを紹介しています(公開は2023年5月23日～2026年3月末まで)。東京2ブロック委員会はその中でもSDGsの目標達成のために普段の生活で取り組める行動についてご紹介します。



★サステナブルって身近なこと★
実は日々の生活の中にはたくさんのヒントが隠れています。

料理をするとき

ニンジンの皮やブロッコリーのくきなど、捨ててしまいがちな部分も調理のしかたを工夫すれば食べられ、食品ロスの発生を防げます。食品を捨てることは、その生産につかわれた資源をむだにすることであり、ごみとして燃やせば温室効果ガスも発生します。一人ひとりが食材を大切につかい切ることが、地球環境への負荷を減らし、温暖化対策につながります。



循環型社会のとびら

食品ロスなど身のまわりのごみを減らし、多くの資源を循環させることで地球環境への負担を減らそう！



外出や買い物にいくとき

ペットボトルやレジ袋などプラスチック容器包装の多くは石油からつくられており、ごみとして焼却されると二酸化炭素が発生します。また、不適切な処理によりごみが海へ流れ込み、生物に影響を与えています。ペットボトルなどではできる限りリサイクルに出しましょう。マイボトルやマイバッグなど繰り返しつかえる製品を持ち歩くことも、環境保全につながります。

衣服を整理するとき

今持っている服を長く大切に着ましょう。手放す場合も資源回収に出す、古着やレンタルサービスで再利用すれば、廃棄物の削減や地球温暖化対策になります。服一着をつくるには様々な環境負荷がかかっています。原料となる植物の栽培や染色などで大量の水がつかわれ、生産過程で余った生地などの廃棄物も出ます。つくる過程で二酸化炭素も発生します。



脱炭素社会のとびら

くらし方の工夫や仲間と協力したアクションによって、二酸化炭素が出ないくらしを当たり前にしよう！



電気をつけるとき

日本の電気の多くは石油や石炭など化石燃料を燃やす火力発電から生まれています。火力発電は二酸化炭素がたくさん発生し、地球温暖化につながります。節電に努めたり、家庭の電気を再生可能エネルギーの使用量が多い電力会社に切り替えると、温室効果ガスの削減になります。自宅の屋根に太陽光パネルを設置することも温暖化対策として効果的です。

いきものを見かけたとき

地球上の動物や植物がどのような生態系をつくっているのか、自然やいきものにふれ、調べてみることで、生物多様性を守るための第一歩です。生協と(株)バイオームの「いきもの探しクエスト」では楽しくいきもの調査を行うことができます。生協が開催する植樹イベントや、川や里山での自然体験、海岸清掃などの活動にも参加してみましょう。



📍 生物多様性のとびら

私たちを含むあらゆる生物が生きるうえで欠かせない「生物多様性」。その現状と、私たちができることを学ぼう！



🔍 見つけよう！

コープいきもの探しクエスト

いきものコレクションアプリ「Biome (バイオーム)」とともに、たくさんのいきものに出会いに行こう！
クエストに参加して、コープいきものマップを充実させよう！



★エシカルってなんだろう★

私たちの身近にある SDGsの実現に最も重要な手段です。



「消費」のしかたを変えよう

「エシカル消費」のことを考えるにあたり、まずは私たちの現在の消費を振り返って考えてみましょう。私たちは生きていくために、さまざまなものをつかって消費しています。食べ物や衣服、学校でつかう文具、車や電気などです。私たちが「消費」しているものの多くは地球の自然が恵んでくれたものです。生きていくうえで必要な水も、木材もエネルギーも、地球の自然が生み出したものです。これらが加工され、私たちの手元に届くまでには、日本や世界で働いている多くの人が関わっていますが、私たちはその人たちの顔を思い浮かべることができるでしょうか？

できないのです。いい換えると、便利になった私たちの今の経済では、私たちが消費しているものがどうやって作られたかをきちんと把握することができません。そのため、自然のめぐみを「消費」し過ぎていることにほとんど気づかなくなってしまうています。魚や貝などがとれる量は年々へり、森林は減少し、すみかを失った多くの生物が絶滅の危機にさらされています。食べ物や身のまわりの製品などをつくる時に発生する二酸化炭素などの温室効果ガスは地球温暖化を促進し、世界各地で大雨など異常気象をもたらし、人間の生活に影響を与えています。

地球環境への影響だけではありません。原材料の多くを生産する発展途上国には、安い賃金で働いており十分に生活をするのができず、貧困に苦しむ人たちがいます。また、賃金はもらえていても、劣悪な労働環境のなかで健康を損なう人もいます。こうした問題のある方法でつくられた食べ物や衣服などは、このように苦しんでいる人々が本来もらうべき賃金などが差し引かれた安い値段で売られています。安いからといってそれらを大量に消費し続けることは、つらい働き方や生活に苦しむ人を見捨てることを意味します。

このように、私たちの「消費」は世界で起きている問題につながっています。したがって私たちが「消費」のしかたをよい方向に変えることで、こうした問題の解決につながる可能性があります。